

2017年3月31日

## 「周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド 2017」の利用にあたり

日本周産期メンタルヘルス学会

### 1. 本コンセンサスガイドの目的

本コンセンサスガイドの目的は、周産期のこころのケアを必要とする人々に対して、医療・保健・福祉等幅広い領域の専門職連携を通じて、より良質なサービスを提供するための支援ツールとなることです。

### 2. 本コンセンサスガイドの対象

本コンセンサスガイドの利用を想定している対象は、精神科医・産婦人科医・小児科医・臨床心理士・看護師・助産師・保健師・ソーシャルワーカー・薬剤師・その他、周産期メンタルヘルス関連の専門職・教育者・研究者、そして、妊産婦を支援する関係者です。各職種間での共通の診療設計、実践ができる様に、現時点での知見を吟味し、各職種間で共有できる最大公約数的な内容としました。また患者・家族への説明に活用できるように、なるべく簡潔平易な表現をこころがけました。

### 3. 責任の帰属

記述内容に関しては、日本周産期メンタルヘルス学会が責任を負うものとします。しかし、周産期メンタルヘルスの臨床状況は個別性が高く、患者の身体的・心理的・社会的背景、家族や地域サポートの差異、支援機関の特性等によっても千差万別です。個別最適な治療を選択する上で、本コンセンサスガイドが推奨する支援内容が選ばれないことも当然ありうることです。また、今後の知見の蓄積等によって、本コンセンサスガイドの結論や推奨の変更を余儀なくされる可能性があります。

実臨床に際して、本コンセンサスガイドの推奨を実践するか否かの最終判断、および選択した診療行為の結果については、本コンセンサスガイドの利用者が責任を負うべきものと考えます。

### 4. コンセンサスガイドの限界と個々の治療の優先

周産期医療の特性から、観察研究や統計資料、症例シリーズなどを推奨の根

拠としている CQ もあります。新しい治療法や薬剤による影響に関しては未知のものが多く、今後の研究や診療知見の蓄積で改訂されるものであることをご理解願います。

また、患者の症状、背景や環境などを考慮し、個別最適な治療を選択する上で、本コンセンサスガイドの推奨内容が選択されないことも勿論ありうることで、本コンセンサスガイドに則っていないことが、適切な治療をしていないこととはなりません。

本コンセンサスガイドは、専門家が良質な診療や支援を検討する上での参照資料として用いるとともに、専門家間の多職種協働や、患者・家族と専門家との共意思決定を進めるツールとしての意義を持つものです。

## 5. 改訂予定

本コンセンサスガイドは、4年ごとの改訂を予定しています。

## 6. 情報の公開

本コンセンサスガイドは、日本周産期メンタルヘルス学会の会員および関連学会の有識者へのドラフト公開、パブリックコメントの募集とそれに対する修正を経て、本学会ホームページ内に公開しました。

## 7. 利益相反について

日本周産期メンタルヘルス学会は、本コンセンサスガイドの作成ならびに評価を担当した委員の利益相反の状況を「臨床研究の利益相反(COI)に関する指針 <http://pmh.jp/coi.html> (日本周産期メンタルヘルス学会作成)」に沿って対応し、担当委員会において適切であると判断致しました。

## 8. 作成費用について

本コンセンサスガイドの作成費用の一部は、平成28年度厚生労働科学研究費補助金(健やか次世代育成総合研究事業)「妊産褥婦健康診査の評価および自治体との連携の在り方に関する研究」の助成を受けたものです。

## 9. 著作権について

本コンセンサスガイドの著作権は、日本周産期メンタルヘルス学会が保有いたします。